

Title	編集後記
Sub Title	
Author	清水, 唯一朗(Shimizu, Yuichirō)
Publisher	慶應義塾大学湘南藤沢学会
Publication year	2019
Jtitle	Keio SFC journal Vol.18, No.2 (2018.) ,p.345- 345
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集 次世代の「看護医療」を語る
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=0402-1802-0345

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

慶應看護 100 年を記念した本号は、看護の歴史から現在、遺伝や出生からケアと看取り、テクノロジーからダイバーシティまで、実に 17 本に及ぶ、総合大学ならではの看護の広がりと深みを示す大特集となった。担当された小池編集委員の身を粉にしての奮闘ぶりは、ナイチンゲールを思い起こさせたとは言い過ぎだろうか。当方はオロオロと見守るばかりで、さながら産科の待合室で気を揉むかのようなであったから、それくらいの賛辞は許されるだろう。

今から 100 年前、世界は第一次世界大戦のさなかにあった。世界を巻き込む大戦争という未曾有の状況を前に、日本でも、イタリアでも、さらにはドイツでも、デモクラシーが世界に広がっていった。平和を望む市民の声を象徴するように、都市にも、戦場にも看護師のすがたがあった。人が人として生き抜いていくための精神と肉体、その両方に看護は長く深くかかわっている。

SFC は、Survive, Future and Care だと言った先達がある。その意図はさておき、このキャンパスに看護の学知があることの意味と可能性はますます広がっている。看護から発せられた強いメッセージが、本書を通じてキャンパスにより多くのつながりを生んでいくことを期待してやまない。

看護とは「護りて看てあること」であり、看の字は手をかざして遠くを見通すようすであるという。次の 100 年の歩みはもう始まっている。それを護り育てるのは、われわれであり、そして次々とこのキャンパスにやってくる若い学生たちである。

清水 唯一朗
KEIO SFC JOURNAL 編集長